

長岡税務署長賞

税金の国籍

新潟県立長岡高等学校

二年 橋元 かおり

税金は、日々の生活の中で欠かせないものだと考えている。私は日本で生まれ、日本で育ち、日本で暮らしている外国人の高校生だ。日本国籍を持っていないため、税金について感じることは他の日本国籍を持つ人々とは少し異なるかもしれないが、それでも税金が私の生活に与える影響は大きいと思う。そこで税金について自分の立場から考えを述べてみたいと思う。

まず、私たちが生活していく中で支払う税金には、消費税や所得税、住民税等がある。これらの税金は、私のような外国人でも支払わなければならないものだ。例えば、買い物をする時、消費税がかかる。消費税は国籍に関係なくすべての人が対象となるため、「日本に住んでいるからこそ払っている税金」だと感じている。また、働いて得た収入にも所得税がかかる。日本では外国人でも働くことができ、その収入に対して税金を支払う義務がある。私の親も働いているので税金が引かれるのは当然だと思っているが、支払っていても公共サービスを利用する権利が十分に与えられていないと感じることがある。

住民税は、住んでいる地域の自治体に納める税金で、

それは地域の公共サービスやインフラ整備に使われている。外国人も住民税を納めることで、生活に必要な地域の公共サービスの恩恵を受けていると思う。しかし、私は選挙での投票権を持たないため、自分が納めた住民税がどのように使われるのかに対して意見を反映させることができないという点にもどかしさを感じ

る。また、外国籍の人は日本の公務員や政治家の職に就くことができない。しかし、彼らの給料も私たち外国人が納めた税金から支払われているという現実がある。税金を支払っている立場でありながら、自分がその職業に就けないこと、さらにその人たちの給料を払っているということに少し矛盾を感じる。

社会保障制度には、日本に住んでいる外国籍の人でも、条件を満たせば年金や健康保険に加入することができる。しかし、加入できない場合もあり、その場合、税金を払ってもこれらの制度の恩恵を受けられないことがある。この点は、少し不公平に感じる。

けれども、日本に住む以上、税金を払うことに対して責任を感じる。私は日本の一員として生活する以上、税金を支払う義務があると思う。日本国籍を持っていないくても、日本社会の一員として納税者の役割を果たすべきだと思う。しかし、納税者としての権利を十分に享受できない現実もあり、日本国籍を持たない者としての限界を感じることもある。

税金はどんな国に住んでも避けて通れないものだ。私は日本という国で生活し、納税者としての責任を果たし、社会の一員としての役割を果たしていきたいと思う。